

皆さんの質問にお答えします～高等部編～

今回は、高等部の保護者の皆様からいただいた質問等にお答えします。多くは、小学部、中学部からの質問と重なるものが多かったです。重なる質問への回答は省略しています。

- Q. いつもと違うことが起きると対処できないので心配です。
- Q. 指示が上手く伝わらず、指示と違う行動をすることがあり心配です。
- Q. 基本的にマイペースです。周りに合わせて行動するのが難しいです。



いつもと違うことが起きると対処できない

→ 初めてのことや急に言われたことに対処できないことは、私たちにもありますよね。できなかったことでも、1つずつ順番に取り組んだり諦めず最後までやりきったり…を繰り返すうちに、少しずつできるようになります。大人も子どもも同じです。保護者の方から「うちの子はこの順番でこうするので学校でもやってください」「うちの子は〇〇しかやりません(食べません、飲みません)」等と、家族が本人の行動を固定化しているのでは？と心配になることがあります。試しにやってみると、すぐにできた！という場面に、我々は結構な頻度で遭遇します。ただ、うっかりすると我々教師も、困りそうな場面(困る前)で、頼まれる前に助けてしまう…(; 〇)、ということもあります(反省)。

“いつもと違う” 小さな変化をどう設定していくか。相談しながら進めていきましょう

小低→小高 小→中 中→高 と、手助けを意識して減し、自分で解決する経験を！

指示理解が上手くできない

→ いきなり大人と同じように理解できるようにはなりませんから、本人の理解の程度を知る、理解できる方法で伝える、同じ経験を積み重ねていくことから始める必要があります。高等部であっても、まずは簡単な手伝い(洗濯を干す、取り込む、畳む、簡単な食事を作ってみる等)をする、決まった時刻に決まったことを必ずやる経験を積み重ねることから。手伝い、簡単調理等、全くやらずに高等部に入ってくる生徒もいます。一人で〇〇する経験(一人で過ごす、楽しむ等)を積み重ねていくことも、自立度をアップさせていくと思います。



マイペースで行動してしまう

→ 家族が本人に合わせて行動したり、気を遣ったりし続けていないでしょうか。見たいアニメも見逃すほどマイペースでしょうか。家族と同じ時間に起きる、一緒に食事をとる、外出時に間に合わせて準備する等、身近な部分から見直してみましょう。全て本人に合わせて、周りに合わせる、合わせないと自分に不都合(不利益)があることも大切な経験。失敗しないように先回りして指示したり叱ったりせず、本人に実感させることが大切。でも、間に合ったときは、「さすがね！」「助かるー」等としっかりと認め(ほめ)、次につなげましょう。



📌ポイント! 高等部なら成功体験だけでなく、失敗の実感と自己責任も大切！

Q. 過度なストレスがかからないように、卒後、手厚く支援してもらえるのかどうか心配です。

Q. 学校と同じようにサポートしてもらえるのか心配です。

生活介護施設では、基本、利用者3名に職員1名の配置となりますので、比較的手厚いサポートが得られます。しかし、マンツーマンでサポートを受けられる時間は少なくなるでしょう。現場実習や卒業後の利用を打診すると「個別対応の利用者はすでにいるので受け入れは難しい」と、お断りされることもあります。一方、常時個別の対応が必要な生徒でも、スムーズに受け入れていただけるケースもあります。放課後等デイサービスと生活介護施設が同じ法人にある場合です。この場合、支援方法をよく分かっている職員がいますので、無理なく受け入れ可能となるようです。



ポイント! 生活介護の利用希望なら、同じ法人の放課後等デイサービス利用も検討する

Q. 卒業後の人間関係が心配です。

会社なのか福祉施設なのかで、大きく変わります。多くの会社では、本人と一緒に働くのはパート従業員さん中心になります。基本、福祉の専門家ではなく、周りからの“優しさ”に支えられることになります。朝、帰りの挨拶、昼休みの過ごし方、雑談、食事の食べ方、トイレの使い方、体臭等、基本がしっかりとできていると馴染みやすくなります。昼休みに勝手にテレビのチャンネルを変える、弁当の食べ方が汚い、歯磨き中に歩き回る、休憩中スマホに夢中で話さない等がみられ、卒後や実習中に「学校でなんとかしてほしい」と要望されたことも…



福祉施設では、福祉としての支援が得られます。しかし、福祉施設であっても、利用者同士の人間関係は学校時代とは違ってきます。幅広い年齢層の利用者がいますので、利用者同士でも敬語で話す必要が出てきます。利用者の中には、先輩後輩、敬語に厳しい方もいます。実習中に“友だち感覚”“ため口”で話しかけていた生徒の利用を、お断りされたこともあります。利用者から「ため口で話されストレスになった」等とクレームが入り、卒後の利用不可となってしまいました。

過度に心配してもはじまりません。まずは、食事、身だしなみ、トイレの使い方、歯磨き中は歩かない等の基本的なことが、家族と同様に一人でできるように、普段からマナーや人付き合いを教えることが大切だと思います。

ポイント! 周りを尊重(気を遣う等)、言葉遣い、身だしなみ、生活習慣・・・結局普段から!

Q. 生活介護施設でも、仕事をしているところはあるのか。



生活介護施設は介護給付となり、障害のある方が自立した日常生活を送るために、食事や入浴、排泄などの介助や調理・洗濯・掃除などの家事支援、創作活動やレクリエーションなどの日中活動の機会を提供しています。働くことで気持ちが安定する利用者のために、生産活動を設定しているところもあります。

例えば、毎日、決められた予定に従って“缶つぶし、PC 解体、農作業等、簡単な作業を設定しています。

就労継続支援A型、B 型は、訓練給付です。将来、働く生活を送ることを目指した作業や訓練を設定していることになります。

どちらの施設でも、働いた分の工賃は毎月いただけることになります。



ポイント! 落ち着いて過ごせる施設を見つけ、在学中から体験や実習を設定しましょう!